

# 重なる音色 日本縦断



大阪、北海道、福岡の吹奏楽の強豪が共演した「日本列島縦断テレワーク合奏」の画面＝ユーチューブから

## 吹奏楽の名門 大阪・東海大仰星など3校

大阪、北海道、福岡の3校の吹奏楽部員たちが、インターネット上で共演を果たした。新型コロナウイルスの影響で思うような活動ができない中で企画した「日本列島縦断テレワーク合奏」。会ったことのない生徒たちが息の合ったハーモニーを響かせている。

背景がバラバラの高校3年生約120人が、同じ画面でヒット曲「パプリカ」を一斉に奏でる。おなじみのダンスを奏しそろうに踊る子も。東海大仰星(大阪府枚方市)と遠軽(北海道遠軽町)、精華女子(福岡市博多区)の3校の吹奏楽部員たちだ。自宅などで撮影した動画を一つに合せて編集した。

## 120人テレワーク一つに編集

「苦しい状況ですが、ともにも頑張っていきたいと思います」。部長たちのメッセージも入れて6分33秒。5月6日の公開から2万8千回以上再生され、このコラボ

はすごい「遠く離れた場所でもつながれる音楽の良さを改めて感じました」などのコメントが寄せられた。3校とも吹奏楽のために遠くから生徒が集まる名門校。顧問3人はみな40代で、コンクールなどで顔を合わせては励まし合ってきた。「いつか一緒に何かやりたいね」と話していた。

新型コロナウイルスの影響で3校とも3月初めから休校に。部活動もできなくなり、部員たちは自宅での練習を余儀なくされた。近所を気にして音を響かせられず、マウスピースだけで練習する生徒もいた。

遠軽の高橋利明教諭(47)が4月下旬、「生徒に何か希望を」と思い立った。「テレワーク合奏」について調べ始めたところ、ユーチューブ上で東海大仰星が投稿した動画を見つけた。同校の藤本佳宏教諭(44)に電話で方法を尋ねると、

## 「大会なくなっても音楽がある」

「せっかくなら一緒にやりましょう」。精華女子の桜内教諭(47)にも電話し、列島縦断のテレワーク合奏が決まった。

まず演奏の土台となるドラムの音を収録し、各校の生徒がLINEで共有。これを元に部員たちが各パートを自宅や公園で自撮りした。防音設備がないなどの理由で演奏できない生徒は踊ったり、手拍子したりして参加した。

数日で100以上の動画を編集したのは東海大仰星の部員2人。「パプリカ」を担当した吉川優大さん(3年)は、楽器ごとに様々な音量のパターンを何度も試し、最適なバランスを探した。「少しでも多くの人々が笑顔になれるように」と部員が描いたイラストを入れたり、顧問だけの演奏シーンを盛り込んだり工夫したという。清水香里紗部長(同)がメッセージを語

る際、手に持ったのはパプリカではなくピーマン。大阪らしいユーモアも忘れなかった。「録画は1人で不安だったが、離れていても音を合わせられることに感動した」と振り返った。

遠軽の吹奏楽局長、松田亜実さんは完成した動画を「すごい元気が出た」という。動画公開から4日後、今秋の全日本吹奏楽コンクール(全日本吹奏楽連盟、朝日新聞社主催)の中止が発表された。「大会はなくなっても、私たちに音楽がある、と思った」。

精華女子吹奏楽部の音楽部長、瀬口紗弥さんも「この機会だからこそ、同じ状況の方々と一緒に演奏できたことがうれしい。良い経験になった」と喜ぶ。

遠軽の高橋教諭は「コロナだから全部あきらめるんじゃないで、できることを探して」とエールを送る。「パプリカ」のアドレスは <https://www.youtube.com/watch?v=Z7VMDrOU0k>。(堀之内健史、渡辺純子)

## 変わる大阪の街並み



万博記念公園前を通過する大阪モノレール「05編成」車両の前に立つ、大阪モノレールの大野茂さん(いずれも5月29日午前、大阪府吹田市、遠藤真梨撮影)

## 郊外の街結ぶ

大阪・北摂地域を走る大阪モノレールが1日、開業から30年を迎えた。高度成長期に郊外に広がった住宅地と大阪空港などを結ぶ足として活躍。沿線の街の風景もすっかり様変わりした。

「田んぼや竹やぶが少なかった所にどんどん建物が建つ。街ができていくのが面白かった」。大阪モノレール社員の大野茂さん(59)は振り返る。「大阪が変わる、ちっこい縮図のような気持ちでした」。

1970年代。大阪万博の会場にもなった北摂地域は人口が急増した。だが鉄道は大阪市から放射状に延びる路線ばかり。都市は過密、郊外は開発の遅れが問題となっていた。

を結ぶ環状鉄道として大阪モノレールは計画された。大野さんは大学の指導教授が計画に携わっていた縁で、開業前からアルバイトとして関わっていた。84年に1期生として入社。運転士の免許を取得し、90年6月1日の開業日には、記念走行の運転士も務めた。

週末になると、当時「陸の孤島」と言われた万博記念公園(大阪府吹田市)に向かう人々で車内はにぎわった。97年に大阪空港駅(同豊中市)と門真市駅(同門真市)まで延伸する



の工業地帯へ通勤する人が乗るようになった。自動運転を導入する同業社もある中、大阪モノレールは今も運転士を養成する。「お客様の視線を感じ、思いをハンドルに乗せるといけない」。今年度末に定年を迎える。再雇用で会社に残り、思いを後輩に伝えていくつもりだ。

81年、市街地を突っ切るモノレール計画を耳にした。レコード店を営んでいた江村さんは、立ち退きに反対の住民ら約120人と提訴。「車両が落ちてくるのでは」「高架でテレビの電

## モノレールとともに

## 開業30年

「不安解消し発展」と言われるくらい人が少なかったんです。豊池駅(豊中市)周辺の住民団体の幹部として、モノレール建設による立ち退きや補償などの交渉を担ってきた江村淳三さん(85)は笑う。

豊池は江戸時代の名残で、狭く入り組んだ街だった。終戦後は、近くの大阪空港を占領軍が接収した影響で、喫茶店やキャバレーも多かった。しかしこれといった産業もなく、いま一つ発展しなかった。

## 不安解消し発展

1:00amより 7月3日(金)発売 7月17日(金)発売 好評発売中!!

1:00amより 7月3日(金)発売 7月17日(金)発売 好評発売中!!

Yamaha Music Japan PRESENTS **IZUMI JAZZ NIGHT 2020** コンサートホールで聴くジャズの世界

午後6時 IL DEVOU クラシック・ボーカル・グループ

文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会(8/10、9/8,14,29、10/16公演除く)

いずみシンフォニエッタ大阪 20周年記念公演 第44回定期演奏会「天使と神々の幻想」

住友生命いずみホール フレッシュ募集! ★主催公演チケット10%割引 ★優先予約OK ★その他特典あり 年会費 ¥2,000(税込) TEL.06-6944-1148 ユースシート(限定数)